

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	鎭谷ゼミ	チーム名	カギちゃんず、ジニる！？
タイトル	貿易とジニ係数		
テーマ群	d) 国際経済		
メンバー	井原涼翔、笠井優志、寺本誠志、入澤さくら、辰巳志帆、花谷風南		
研究計画内容	【研究背景】 近年、グローバル化の進展によって、国際貿易や投資が活発化し、各国の経済はより密接に結びついてきた。しかし、関税の引き上げや人種問題、格差拡大による反グローバル化が問題視されている。特に、低所得層や中間層の雇用不安・所得停滞が深刻化している。その一方でグローバル化の進展は国や地域によって影響が異なり、産業構造の変化や雇用の不安化を通じて所得格差を拡大させる可能性もある。 【研究内容】 本研究では、発展途上国におけるジニ係数と貿易開放度の関係を明らかにするために、2000 年代のパネルデータを用いた実証分析を行う。被説明変数をジニ係数とし、主な説明変数として貿易開放度を設定する。また、経済成長率、教育水準、失業率などの要因も加え、各変数が所得格差にどの程度影響を与えるかを比較検証する。 分析手法としては固定効果モデルを用い、国ごとの特性や時系列的変化を考慮することで、貿易開放度が格差の拡大または縮小に与える影響をより正確に推定することを目的とする。 【期待される効果】 本研究により、発展途上国における所得格差の形成要因が定量的に明らかになり、特に貿易開放度が格差に与える影響の方向性を把握できると期待される。また、教育や雇用などの他の経済要因との比較を通じて、経済成長と格差は正を両立させる政策立案に向けた示唆を得ることができる。既存研究との比較を行うことで、近年のグローバル化が発展途上国の所得分配に及ぼす影響を再評価する新たな知見を提示できると考えられる。 【参考文献】 倉持俊哉（2022）『途上国における貿易と所得・賃金格差の関連性に関する実証分析』専修経営学論集。 Meschi and Vivarelli (2009) “Trade and Income Inequality in Developing Countries” World Development. Lim, G. C., & McNelis, P. D. (2014) “Income inequality, trade and financial openness” Melbourne Institute Working Paper Series Working Paper No. 7/14.		